



# 森の忍者

207号



2018年 8月発行 宇佐市民図書館

# せんそう こ あそ 戦争と子どもたちの遊び

いま ねんいじょうまえ にほん せんそう  
今から 70 年以上前、日本は戦争をしていました。  
この頃、みなさんと同じくらいの年齢の子どもたちは、どんな遊びをしていましたのでしょうか。『戦争とくらしの事典』という本から、いくつか紹介します。

## 【幼稚園での戦争】

都會の豊かな家庭の子がかよう幼稚園では、そろいの鉄かぶとや背のう（ランドセルのような背負いかばん）、銃のおもちゃまでそろえて戦争ごっこをやらせ、軍隊の規律を学ばせた。

【めんこ】

野球選手やおもむかわうさん、軍人や武将、慰問袋をつくる子どもなどがえがかれるようになった。防毒マスクや戦車の絵も見られる。

### 【戦争かるた】

江戸時代からのいはかるたにかわって、戦争かるたが登場する。リズムのよいかるたのことばは、知らず知らずのうちに、子どもたちに戦争への気がまえをうえつけた。

『戦争とくらしの事典』(ポプラ社)より

ほん ほか せんじゅう あそ しょうかい  
本にはこの他にも、戦時中の子どもたちの遊びが紹介されています。  
もっと知りたくなった人は、読んでみましょう。

8月の特集

# 戦争・平和

- |                   |       |   |               |          |
|-------------------|-------|---|---------------|----------|
| 『かわいそうなぞう』        | 土家由岐雄 | ● | 『火の壁をくぐったヤギ』  | 岩崎京子     |
| 『火垂るの墓』           | 野坂昭如  |   | 『希望の義足』       | こやま峰子    |
| 『二十四の瞳』           | 壺井栄   |   | 『弟をかえして』      | 宮良作      |
| 『せかいいいちうつくしいぼくの村』 | 小林豊   |   | 『伸ちゃんのさんりんしや』 | 児玉辰春     |
| 『地雷ではなく花をください』    | 葉祥明   |   | 『ちいちゃんのかげおくり』 | あまんきみこ   |
| 『ひろしまのピカ』         | 丸木俊   |   | 『七本の焼けイチョウ』   | 日野多香子    |
| 『飛べ！千羽づる』         | 手島悠介  |   | 『ふたりのイーダ』     | 松谷みよ子    |
| 『やさしい木曽馬』         | 庄野英二  |   | 『原子雲を見た子どもたち』 | 坂口便      |
| 『わたしのいもうと』        | 松谷みよ子 |   | 『ガラスのうさぎ』     | 高木敏子     |
| 『おにいちゃん、死んじやった』   | 谷川俊太郎 |   | 『チロヌップのきつね』   |          |
| 『かあさんのうた』         | 大野允子  |   |               | たかはしひろゆき |
| 『八月がくるたびに』        | おおえひで |   | 『ぼくが見た太平洋戦争』  | 宗田理      |
| 『ムッちゃん』           | 中川正文  |   |               |          |
| 『むらさき花だいこん』       | 大门高子  |   | (このほかにもあります)  |          |

《夢だより》  
8月に入りいよいよ夏まつ  
さかりですね。みなさんどん  
な夏休みをお過りしでしょ  
うか。  
今月の本の夢弓の特集は、  
『海のおはなし』です。  
暑いこの季節、海に遊びに  
行く人もいることでしょう。  
夢弓では、海の生き物が出て  
くるおはなしや、海が舞台の  
おはなしの本を集めてみまし  
た。本の中の海もおもしろい  
かもしれませんよ。  
夏休みの間も夢弓は学校  
を回っています。返す本や  
予約の本がある人は忘れずに



# 宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田 1017-1

でんわ／0978-33-4600 ファックス／0978-33-4679



## 『わたしの「やめて』』

自由と平和のための  
じゅう へいわ

京大有志の会 文 より  
きょうだいゆうし かい ぶん

くにとくにのけんかをせんそう  
といいます  
せんそうは  
「ぼくがころされないようにさき  
にころすんだ」  
というだれかのいいわけではじ  
まります  
せんそうはひとごろしのどうぐ  
をうるおみせをもうけさせます  
せんそうははじまるとだれにも  
とめられません  
せんそうははじめるのはかんた  
んだけどおわるのはむずかしい  
せんそうはへいたいさんもおと  
しよりもこどもくるしめます  
せんそうはてやあしをちぎりこ  
ころもひきさきます  
わたしのこころはわたしのもの  
だれかにあやつられたくない

わたしのいのちはわたしのもの  
だれかのどうぐになりたくない  
うみがひろいのはひとをころす  
きちをつくるためじやない  
そらがたかいのはひとをころす

ひこうきがとぶためじやない  
げんこつでひとをきずつけてえ  
らそうにいばつているよりも  
ここをはたらかせてきずつけ

られたひとをはげましたい  
がつこうでまなぶのはひとごろ  
しのどうぐをつくるためじやない  
がつこうでまなぶのはおかねも

うけのためじやない  
がつこうでまなぶのはだれかの  
いいなりになるためじやない  
じぶんやみんなのいのちをだい  
じにしていつもすきなことをかん  
がえたりおはなししたりしたい  
でもせんそうはそれをじります

うだらせんそうをはじめようと  
するひとたちにわたしはおおきな  
こえで

山と海とにかくまれたほそな  
がいながさきのまち。

うらかみのてんしゅどうがよ  
がりました。うまやのまわりに  
はさくでかこわれたひろばがあ  
つて、そこからかぽつかぽつとか  
わいらしいひづめのおとがきこ  
えていました。

「やめて」というんだ

## 『ながさきの子うま』

大川悦生 さく より  
おおかわえっせい

《あの なつ》

とてもあついなつでした。

山と海とにかくまれたほそな  
がいながさきのまち。  
うらかみのてんしゅどうがよ  
がりました。うまやのまわりに  
はさくでかこわれたひろばがあ  
つて、そこからかぽつかぽつとか  
わいらしいひづめのおとがきこ  
えていました。

てつぱうのたまにあたつてし  
んだうまもあつたし、ふねといつ  
しょに海のそこへしずんだうまも  
あつたのよ。かあさんだつてね、  
いつつれていかれるかしれません

よ

こつくこつく。

「きいているのですか、あまえ

んぼさん

「ぼくいやだ。かあさんがい  
くならどこへでもついていく」

と、いなさ号はあわててちぶさ  
をはなしました。

かあさんはへんじをしない  
で、ゴオーンとばくおんのするそ  
らをみあげました。

せんそうがいよいよまけいくさ  
になつてきたのはちゃんとわかつ  
ていたのです。

この後、ながさきのまちに原子爆弾  
がおとされます。うまのおやこはどうな  
つてしまふのでしよう。

続きは本を読んでみてください。

「ダメねえ、あなたはそうやつ  
てまたおちちをほしがるんではし  
よ。もうなんでもたべてるじやあ  
りませんか」  
と、かあさんうまがいいました。  
「いまはしりまわってのどがか  
わいたんだよ、ぼく」  
と、子うまがいました。  
かあさんうまはこいくりげ。子  
うまのほうはあかるいくりげでし  
た。

そのとしにうまれた子うまを、  
ふつうトウネといいます。「いなさ  
号」つてなづけられた子うまは四  
月うまれのトウネでしたから、に  
んげんでいえばあかちゃんだつた  
のです。でも、子うまはうまれおちてか  
あさんうまにからだをなめてもら  
うと、すぐたちあがります。

四つきたつたいまでは、ふすま  
やまぐさをどんどんたべ、かあさ

んうまをおいかけてじょうずに  
かけまわることができました。  
「ね、ちょっとだけのまして」  
「しかたのない子だと、ち  
よつとだけですよ」  
いなさ号はあまえながらもう  
まちきれないようにかあさんう  
まのおなかへくびをもぐらせま  
した。

すると、ウォーンとサイレン  
がひびきわたりました。  
てきのひこうきがやつてくる  
しらせでしたが、このおとには  
なれつこだつたので子うまもお  
どろきはしません。こつくこつ  
くとおちちをすいました。

「あなたが大きくなるまでに  
せんそうなんておわつてしまえ  
ばいいけれどね。へいたいたち  
につれていかれてせんちへやら  
れたうまは、たいていもどつて  
こなかつたんです」  
こつくこつく。

「てつぱうのたまにあたつてし  
んだうまもあつたし、ふねといつ  
しょに海のそこへしずんだうまも  
あつたのよ。かあさんだつてね、  
いつつれていかれるかしれません

よ

こつくこつく。

「きいているのですか、あまえ

んぼさん

「ぼくいやだ。かあさんがい  
くならどこへでもついていく」

と、いなさ号はあわててちぶさ  
をはなしました。

かあさんはへんじをしない  
で、ゴオーンとばくおんのするそ  
らをみあげました。

せんそうがいよいよまけいくさ  
になつてきたのはちゃんとわかつ  
ていたのです。

この後、ながさきのまちに原子爆弾  
がおとされます。うまのおやこはどうな  
つてしまふのでしよう。

続きは本を読んでみてください。